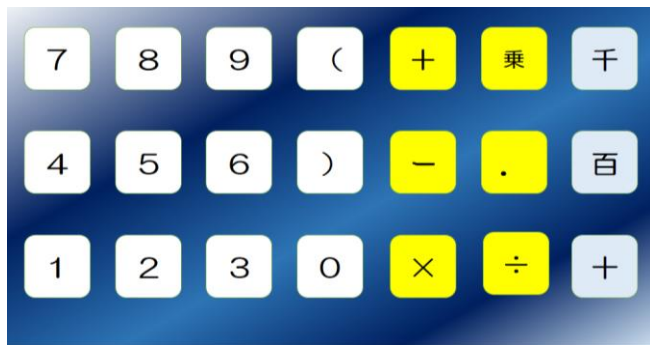


取組の内容・授業の様子(高等部普通課程)



数字画面

(この画面を視線で示すことによって、支援者に問題の答えを伝える)

【目的】

- ・表出に課題にある生徒の学習理解度を知るために視線で表出させることにより、理解度を把握し学習指導の計画を立てる。
- ・表出に課題のある生徒の発表や回答にかかる時間を短縮し、単位時間でできる学習量を増やす。

【活動の様子】

- ・当初は自分の視線の動きだけで即相手に伝わり、自信のないことや、考える時間が欲しいときに敬遠しがちな様子が見られた。そのため、自分の視線が即相手に伝わることに慣れるためにふうせんわりなどのゲームを使って遊ぶことで、視線→ないかがおこることに慣れた。
- ・1回目の使用で前述のような敬遠する様子(恐怖?)があったため、視線が即音声に変換されるファイルの使用はやめ、GAZETRACE(液胞のような半透明のカーソル)によって文字を伝えるようにしたところ、抵抗感なく、取り組めるようになった。
- ・文字盤(数字盤)視線入力により、集団で受けている授業の大型テレビの発問の答えや、演習プリントの答えを代筆者に伝えることに使用したところ、問題が解けるまでの時間が飛躍的に速くなった。

成果と今後の課題

- ・今現在はGAZETRACEによる視線位置によって、表現しているが、本人が慣れていけば音声変換を使ったコミュニケーションに変えていく。他の授業でも要望があれば数字以外の50音の音声変換を使う。